

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 75 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 75 回 : 2017 年 2 月 10 日 (金) 13:30~16:30

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 橋本幹事, 佐藤, 岡野, 石田, 岩谷, 喜多, 小谷, 日高, 黒岩,
織田 (谷口代理), 小森 (12 名)

(常時参加者) 野村, 松本 (池田代理) (2 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-75-1 第 74 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-75-2 人事について

P4SC-75-3 講習会の結果概要

P4SC-75-4-1 停止時 PRA 標準改定案

P4SC-75-4-2 停止時 PRA 標準改定に係るコメントへの対応

P4SC-75-5 “原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準 (レベル 1 PRA 編) : 201X” 定例改定に係るリスク専門部会報告

P4SC-75-6 レベル 1PRA 標準改定の将来工程 (案)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 12 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 74 回議事録の確認

資料 P4SC-75-1 を用いて第 74 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければそのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-75-2 により, 村田常時参加者の登録解除が報告された。

(4) 講習会の結果について

資料 P4SC-75-3 により、2/1 及び 2/2 に開催した今年度の講習会の結果概要が報告された。質疑応答、アンケート結果などは今後の講習会の参考としていくこととなった。

(5) 停止時 PRA 標準改定案の読合せ

資料 P4SC-75-4-1, P4SC-75-4-2 を用いて、停止時 PRA 標準改定案の読み合せ検討を行った。前回分科会でのコメント対応について報告があり、次のコメントがあった。

- ・附属書 L, 解説で「大イベントツリー」の「大」のフォント, 「かかわる」の仮名漢字表記, 用語「人的因子」の使用状況, 「 ” 」の全角標記などを再確認し, 標記を統一する。
- ・附属書 L 図 L.2 内の字体について, 今後の誤記チェックと合わせて調整する。
- ・解説 1 「及び原子力発電所・・・並びに・・・」は「並びに原子力発電所・・・及び・・・」に修正する。
- ・解説 1 c) 項 「“ASME/ANS PRA 標準”」は「ASME/ANS」に修正する。
- ・解説 1 d) 項 「要件」は「事例」に修正する。
- ・解説表 3.1 「次に実施される期間」は「次にブロックが実施される期間」に修正する。

また, 改定案の読合せを行い, 解説 7~解説 9 において以下の議論があった。

解説 7

「立案・管理への利用も考えられる」は「立案・管理へ利用できることも考えられる」に修正する。

「・・・面」は「・・・上」に標記を統一する。

a) 項 「ORAM では, 時々刻々,・・・」において「時々刻々,」を削除する。

a) 項 「機能面, 運転員操作面, 回復操作余裕面」は, 今後の誤記チェックと合わせて記載の整合を検討する。

b) 項 「通常時運転要領, 事故時運転要領」は「通常操作手順, 事故時操作手順」に修正する。

c) 項 2) 「内的事象炉心損傷頻度」は「炉心損傷頻度」に修正する。

c) 項 2) 最終段落は過去形表現とする。

c) 項 2) 最終段落で「プラント停止時」「停止時」の重複記載を整理する。

c) 項 2) 最終段落「現在, NRC では, リスク情報に基づく規制活動を進めることとし, PRA の使用とその適用範囲を停止時まで拡大を求めており」は「NRC では, リスク情報に基づく規制活動を進めることとし, PRA の使用とその適用範囲を停止時まで拡大することを求めており」に修正する。

c) 項 3) 「システムの開発を開始している」は「システムを開発している」に修正する。

c) 項 3) 「日本原子力開発機構」は「日本原子力研究開発機構」に修正する。

参考文献(12)の記載を調整する。

解説 9

「定期検査時用のパラメータ監視装置の導入等の設備改善が図られているが」は「定期検査時用のパラメータ監視装置の導入等の設備改善が図られており、信頼性は高いと考えられるが」に修正する。

「水位計等の指示値の信頼性について着目し実施することが考えられる」は「水位計等の指示値の信頼性について検討することが今後考えられる」に修正する。

「人的過誤として定量化を実施する」は「人的過誤として定量化が必要となる」に修正する。

(6) 停止時 PRA 標準改定案の専門部会報告について

資料 P4SC-75-4-1 に関して、今回分科会での読合せコメントを反映する条件で、次回リスク専門部会に報告することが了承された。また、専門部会での報告では、資料 P4SC-75-5 により分科会幹事から説明を行うことが紹介された。福島第一原子力発電所事故からの反映として、今回 SFP のリスク評価を取り込んだことを明記することとなった。

(7) スケジュール, その他

リスク専門部会から標準の性能規定化・階層化の検討依頼が発出されており、今後の分科会としての進め方について、資料 P4SC-75-6 により概要説明があった。関連機関の検討とも連携して分科会検討を進めていくこととなった。

次回分科会は 3 月 30 日 PM で仮設定とし、状況により開催を調整する。

以上